

皆さん、こんにちは。

このたび、岡田武史JFA前副会長が辞任されました。今回の決断に至った岡田さんの思いを、しっかりと受け止めています。岡田さんには日本サッカーの発展に尽くしていただき、私自身も多くのことを学ばせていただきました。心から感謝しています。岡田さんからは、違う立場で日本サッカーを支えていきたいというお話もいただいています。私としても、引き続き率直なご意見やアドバイスをいただき、ともに日本サッカーの未来をつくっていければと思っています。

そして、田嶋幸三名誉会長が、来年3月の国際サッカー連盟（FIFA）会長選挙への出馬を決断されました。田嶋さんはJFA会長として日本サッカーの発展を牽引し、アジアサッカー連盟（AFC）やFIFAでも長年活動され、豊富な経験を積んでこられました。JFAとしてもこの挑戦を全面的に支持することを決めました。日本サッカーが培ってきた経験や価値観を世界に発信し、アジア、そして世界のサッカーのさらなる発展につながることを期待しています。

日本サッカーがアジア、そして世界の中で、より大きな役割を果たしていく。そのためにも各国・地域との信頼関係を深め、サッカーの未来について率直に意見を交わすことが大切です。10月21日から22日には、AFC主催の「AFC加盟協会・地域連盟会長・事務総長会議2026」が都内で開催されました。日本初開催となった会議では、アジアサッカーの未来に向けて議論が交わされました。準備・運営に尽力してくださった職員の皆さん、関係者の皆さんに、心から感謝申し上げます。

私は「Japan's Football Journey」と題したプレゼンテーションで、かつてアジアでの戦いに苦しんだ日本が、トレセン制度の整備やJリーグの創設など、世界から学び、挑戦を重ねて成長してきた歩みを紹介しました。日本サッカーの成長は、日本だけの力で成し遂げられたものではありません。その経験や知見をアジアの仲間と共有し、ともに未来をつくっていきたいという思いを伝えました。各協会の皆さんからも「日本サッカーが強くなった理由がよく分かった」「われわれも日本と一緒に成長を目指したい」といった声をいただき、手応えを感じました。

会議ではAIの活用、女子サッカーの発展、審判員の育成、社会貢献など幅広いテーマが議論されました。女子サッカーへの投資で知られるミシェル・カン氏からは、日本人選手が女子バロンドールに3人ノミネートされたことに触れ、競技面での成果に見合った投資を求める提言もありました。その成果を女子サッカー全体の発展につなげていく重要性を感じました。

会期中にはAFCアジアカップサウジアラビア2027について関係者と意見を交わし、安全面への懸念を伝えました。その後、11月3日にAFCから大会の延期と新日程が発表されました。今後も選手や関係者の安全を最優先に、安心して大会に臨める環境づくりに向けて連携していきたいと思います。

今回の会議は、JFAにとっても大きな財産になりました。運営や各協会との交流で得た経験は、今後の活動にも生きてくるはずです。日本サッカーは国内の多くの人たちに支えられ、世界から学び、各国・地域との信頼関係を築いて成長してきました。これからも国内外のつながりを大切にし、互いに学び、ときには率直に意見を交わしながら、日本サッカー、そしてアジアや世界のサッカーの未来に貢献していきたいと思います。

公益財団法人 日本サッカー協会 会長　宮本恒靖

会長の活動報告

2026年9月18日～10月15日（抜粋版）

9/24(木)、28(月)、10/1(木)、5(月)

SAMURAI BLUE　キリンチャレンジカップ2026
vs.ウルグアイ代表（キューアンドエースタジアム宮城）
vs.ベネズエラ代表（エディオンピースウイング広島）

キリンカップサッカー2026
vs.エクアドル代表（横浜国際総合競技場）
vs.ニュージーランド代表（国立競技場）



FIFAワールドカップ2026後初となるSAMURAI BLUEの国内4連戦でした。4年ぶりの開催となったキリンカップでは優勝という結果を収めることができました。長年にわたり日本代表を支えていただいているキリングループの皆さまにあらためて感謝申し上げます。次の目標に向け、チーム内の競争をさらに高めていきます。

9/26(土)

2026年度リスペクトシンポジウム（blue-ing!）



「審判員とのリスペクト」をテーマに開催し、ユース審判員が指導者や観客から心ない言葉を受けた事例なども共有しました。判定への意見と相手への敬意を欠く言動は全く別のものです。若い審判員も安心してピッチに立てる環境をサッカーファミリー全体でつくっていくことが大切です。

9/28(月)

株式会社モルテンとのパートナー契約締結調印式
（モルテン広島本社）

長年、日本サッカーを支えていただいているモルテンさんとの契約調印式に出席しました。ボールを届けるだけでなく、子どもたちの体験機会の創出や社会課題への取り組みもともに進めています。これからもサッカーの価値を一緒に広げていきます。



9/29(火)

Jリーグ理事会（Jリーグ）

10/1(木)

日本サッカーを応援する自治体連盟研修会
（横浜市スポーツ医学センター）



ワールドカップでは、全国各地のパブリックビューイングなどを通じて大きな力を届けていただきました。その熱量を次は2027年の女子ワールドカップへ。部活動の地域展開も含め、自治体の皆さまと連携しながら、地域でサッカーを支える環境をつくっていきます。

10/2(金)

グローバルスポーツビジネスサミット2026（blue-ing!）



国内外のスポーツ関係者が集まり、スポーツの未来や可能性を多角的に考える機会となりました。私は教育をテーマにしたセッションに参加し、スポーツが持つ教育的価値や、社会に果たす役割について意見を交わしました。

10/2(金)、3(土)

第20回アジア競技大会（2026／愛知・名古屋）
女子決勝（エコパスタジアム）、男子決勝（豊田スタジアム）



国内組を中心に編成されたなでしこジャパンは、朝鮮民主主義人民共和国代表とのPK戦を制し、大会3連覇を達成。U-21日本代表はU-23韓国代表との決勝で惜しくも敗れ、銀メダルとなりました。男女ともアジアの頂点を争う舞台で得た経験は大きな財産です。この世代の成長を次の日本代表につなげていきます。



10/5(月)、6(火)

47FAカンファレンス（東京／室町三井ホール＆カンファレンス）



全国47都道府県サッカー協会の皆さまと、ワールドカップの振り返りや育成年代、女子サッカーなど、日本サッカーの未来について幅広く議論しました。日本サッカーの発展は地域の力なくして実現できません。47FAと同じ方向を向きながら、これからも取り組んでいきます。

10/10(土)、11(日)、14(水)

第80回国民スポーツ大会（サッカー競技）
少年女子・少年男子（青森県）

八戸市、十和田市、五戸町、南部町で行われた少年女子・少年男子の試合を視察しました。今年のワールドカップに出場したSAMURAI BLUEの26選手中8選手が国スポ経験者です。大会を支えてくださった青森県サッカー協会、各自治体をはじめ関係者の皆さまに感謝申し上げます。



10/15(木)

JFA理事会（JFAハウス）

理事会トピックス

2026年度第12回理事会が10月15日（木）にJFAハウスで開催されました。
詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式Webサイトをご参照ください。

決議事項

「2026年度スポーツ団体ガバナンスコード」自己説明・公表資料を承認

「スポーツ団体ガバナンスコード」の自己説明・公表に関する資料を承認しました。スポーツ団体ガバナンスコードとは、スポーツ団体が適切な組織運営を行うための原則・規範として2019年6月にスポーツ庁が策定したもので、スポーツ団体には年1回、同コードの順守状況を説明し、関連資料を公表することが義務付けられています。

報告事項

SAMURAI BLUE 国際親善試合を12月に開催

12月30日に大阪・パナソニック スタジアム 吹田でキリンチャレンジカップ2026を開催することが報告されました。同大会は、来年1月に開幕するAFCアジアカップ2027に向けたSAMURAI BLUEの重要な強化の機会として開催されるもので、キックオフ時刻や対戦相手などは決定次第、発表します。

コンプライアンスの取り組み状況

コンプライアンス委員会より、コンプライアンスの取り組み状況について報告されました。JFAでは倫理・コンプライアンスタスクフォースを中心に、JFAおよびJリーグ、WEリーグに加盟する全72クラブによる「日本サッカー 倫理・コンプライアンスに関する共同声明」の発表をはじめ、選手や指導者、審判など各カテゴリーにおける研修の実施、方針・規程の見直しなどを進めており、コンプライアンスに基づいた組織運営の徹底に努めています。

自然災害での支援体制

「国内における自然災害等による被害に対する支援事業に関するガイドライン」に基づく支援活動について報告がありました。令和6年能登半島地震や令和8年熊本地震への対応状況に加え、今後の実行体制について説明されました。

Information

天皇杯と皇后杯の元日決勝同日開催が決定 両試合ともNHKで生中継

男女日本一のチームを決める「天皇杯JFA第106回全日本サッカー選手権大会」と「皇后杯JFA第48回全日本女子サッカー選手権大会」の元日決勝同日開催が決まりました。
決勝の元日開催は天皇杯が第100回大会以来6年ぶり、皇后杯は2年ぶりで、両大会決勝の同日開催は15年ぶりとなります。また両大会の決勝がNHK総合で生中継されることも決まりました。※9/18発表

「JFA×文京 Dream Project」第7弾 「街のオフィスの交流フェス」を11/22に小石川運動場で開催

JFAは「JFA×文京Dream Project」の一環として、11月22日に東京・小石川運動場で文京区内の企業・団体を対象としたウォーキングフットボール交流会「街のオフィスの交流フェス」を開催します。勝敗を競わず、誰もが楽しめるウォーキングフットボールを通じて社員同士や異業種間の交流促進を図るとともに、子どもや家族向けのマルチスポーツ体験も実施。元日本代表選手もゲストとして参加する予定です。※10/1発表

【JFAこころのプロジェクト】「JFA×TENTIAL ユメセンコンディショニングプロジェクト in能登半島」を10/9に石川県志賀町で開催

JFAは令和6年能登半島地震の復興支援活動の一環として、10月9日に石川県志賀町立富来中学校で「JFA×TENTIALユメセンコンディショニングプロジェクトin能登半島」を実施します。「夢の教室」に加え、支援企業の株式会社TENTIALによるコンディショニング特別授業を開催。「コンディショニングを活用して前向きに生きる」という考えのもと、被災地の子どもたちの心身の成長を支援し、中長期的な復興につなげていきます。※10/4発表

サッカーe日本代表 FIFAe World Cup 2026の参加を見送り

JFAは、10月16日から23日にサウジアラビア・ジッダで開催が予定されていた「FIFAe World Cup 2026」について、現地情勢および安全面に関する情報を総合的に検討した結果、サッカーe日本代表の大会参加を見送ることを決定しました。対象となるのはコンソール部門およびモバイル部門のe日本代表選手団で、選手・スタッフの安全を最優先に判断したものです（編集部注：その後、主催者である国際サッカー連盟は大会の延期を決定）。JFAは今後も状況を注視しながら適切に対応していきます。※10/10発表

「BALANCE IS BETTER JAPAN 第1回シンポジウム」を10/23にblue-ing!で開催

JFAおよび日本バスケットボール協会、日本ハンドボール協会、日本ラグビーフットボール協会、全日本軟式野球連盟、日本スポーツ協会の6団体による共同プロジェクト「BALANCE IS BETTER JAPAN」は、10月23日にJFAサッカー文化創造拠点「blue-ing!」で第1回シンポジウムを開催します。子どもたちの健全な成長とスポーツ環境の未来をテーマに、基調講演やパネルディスカッションを実施。競技の枠を超えた連携・協働を通じて、子どもたちが生涯にわたりスポーツを楽しみ、自分に合った環境を選択できる社会の実現について発信します。※10/15発表

その他の主なニュース

- なでしこジャパンのコーチに石井正忠氏が就任（9/18発表）
- なでしこジャパンのテクニカルスタッフに太田圭輔氏が就任（9/18発表）
- 「AFC加盟協会・地域連盟 会長・事務総長会議2026」東京での開催が決定（9/21発表）
- 【JFAこころのプロジェクト】「ZOJIRUSHIユメセンサーキット2026」第5回「夢の教室」を10/8に福島県相馬市で実施（10/1発表）
- なでしこジャパンの未来をつくる育成年代応援プロジェクト～再び世界一へ～ クラウドファンディングを実施（10/2発表）
- リスペクトアウォーズ2026 受賞者が決定 ～サッカーファミリーのリスペクトあふれる取り組みを表彰～（10/9発表）
- 『サッカー日本代表 FIFAワールドカップ2026 「最高の景色」への挑戦 ONE CREATURE 2nd Leg』、11月20日より全国公開（10/13発表）
- 「育成年代応援プロジェクト JFA アディダス DREAM ROAD」リバープレート（アルゼンチン）へ4選手が短期留学（10/13発表）
- 一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟50周年記念式典・特別功労賞贈呈式を10/19に東京都内で開催（10/14発表）
- いろいろなスポーツにチャレンジしよう！「JFA×TOYO TIRESマルチスポーツチャレンジin宮城」を11/21に宮城県の岩沼市陸上競技場で開催（10/14発表）
- 「審判交流プログラム」アメリカより審判員を招聘（10/15発表）
- 天皇杯JFA第106回全日本サッカー選手権大会 特別賞「SCO GROUP Award」 3大会連続にて設置（10/15発表）



ビーチサッカー日本代表

田畑輝樹監督を マンマーク!

第27回のゲストは、ビーチサッカー日本代表の田畑輝樹監督です。ビーチサッカーの魅力や今後の認知拡大について語り合うとともに、11月にタイで開催されるAFCビーチサッカーアジアカップ2026への意気込みについてうかがいます。

動画も公開中!

ビーチサッカーの明るい未来のために。アジア王者奪還、そして世界一を

宮本 実際にビーチサッカー日本代表の試合を会場で見てきていますが、ダイナミックなプレーが多いのは魅力ですよね。必ずと言っていいほどオーバーヘッドがあるのもいい。

田畑 見ていて面白いのはオーバーヘッドとフリーキックですね。壁がないので、どこからでも決められます。また、ミスパスが砂にバウンドしていいパスになったり、その逆もあったり、読めないところも魅力のひとつ。キックオフから1秒もかからずにゴールが決まるとか、3、4点差離されても射程圏内だとか、そういったところはビーチサッカーならではだと感じます。

宮本 ブラジルに行くと、コパカバーナでもみんなビーチサッカーをやっているじゃないですか。裸足でボールを扱う感覚が磨かれていくのは、子どもたちにとってもすごくいいことだと思うんです。

田畑 空間認識や、バウンドが変わったときの反応速度なども磨かれます。ボールタッチの感覚が養われることも含めてサッカーに通じるものがあるので、小さいときからビーチサッカーをやってほしいですね。結構、おススメです(笑)。

宮本 ビーチサッカーをもっと多くの人に知ってもらいたいし、もっと多くの人にプレーしてもらいたい。砂の上でボールを蹴るのは難しいし、なかなかしんどいけど、楽しいですから。

田畑 ありがとうございます。目に触れる機会がどうしても少ないですよね。知ってもらうにはやっぱりビーチサッカー日本代表が結果を残して、そのニュースがいろんなところで紹介されれば「見てみようかな」「やってみようかな」という人も出てくるとは思うんです。

宮本 ロシアで開催されたFIFAビーチサッカーワールドカップ2021において日本代表は準優勝しています。昨年の前回大会はベスト8。現状、世界トップとの距離感についてはどのように捉えていますか。

田畑 (トップが)近いようで遠い。2021年に2位にはなりましたが、その実力はあったにせよ運の要素もあったと思います。ただ世界が見える場所にいるというのは確かです。

宮本 近いようで遠い要因は技術? フィジカル? それとも戦術?

田畑 そのすべてがまだ揃っていないし、揃わないと世界と肩を並べていくのは難しいと感じています。フットサルやサッカーに学びながら、戦術においても新しいものをつくろうとしている段階。そういったものがもっと根づいていけば、ワールドカップ優勝に近づいていけるかなという感触は持っています。

宮本 昨年10月に前回ワールドカップ3位のポルトガル代表と沖縄で国際親善試合を行い、1勝1敗でした。ポルトガルは砂の上じゃなく、まるでピッチでサッカーをやっているような動き方で崩してきたのにはちょっと衝撃を覚えました。

田畑 世界のトップレベルはわざわざボールを浮かさなくても普通に砂の上でポンと出したほうが速いとか、そういう感覚を持っていますよね。

宮本 今年11月にはタイでAFCビーチサッカーアジアカップ2026が開催されます。昨年の前回大会、日本は3位でした。

田畑 2019年大会を最後にアジアの頂点に立てていないので、もちろんターゲットは優勝になります。

宮本 前回大会の優勝はイラン代表でした。

田畑 体が大きいですし、プレーの安定性が違います。トラップ一つ取ってもブレがないし、プレー自体に波がないという印象を持っています。

宮本 対イランもさることながら今回、アジアカップを勝ち切るためにチームとしてどんなことに取り組んでいますか。

田畑 体のぶつかり合いでは正直、分が悪いのは否めません。1対1なら難しくとも2対1なら外せる。ゴレイロ(GK)を起点にしてそこから2対1の数的優位をつくっていくことに今取り組んでいます。

宮本 ゴレイロがかなり重要なんですね。

田畑 やっぱり強いチームにはいいゴレイロがいます。そこにまず相手のプレッシャーが来るので、守備のみならず攻撃においても大事な役割を担います。

宮本 アジアチャンピオンに返り咲くことを期待しています。そして来年にはFIFAビーチサッカーワールドカップ2027 が待っています。

田畑 サッカーファミリーの一員としてビーチサッカーがどう貢献できるかを考えたとき、繰り返しになりますが、やはり代表チームが結果を残さないといけない。まずはアジアカップ優勝を成し遂げられるように努力していきたいと思います。そしてその先にあるワールドカップでも優勝を目指します。

宮本 JFAは「サッカーで未来をつくる」と言い続けています。サッカーもフットサルも、そしてビーチサッカーも、多くの方々に、子どもたちに楽しんでもらいたい。そのためにも代表チームの活躍は重要です。頑張ってください!

田畑輝樹(たばた・てるき)

1979(昭和54)年4月16日生まれ。鹿児島県出身。アルビレックス新潟、沖縄かりゆしFC、FC琉球などでプレーした後、ビーチサッカーに転向。ビーチサッカー日本代表として133試合出場37得点。FIFAビーチサッカーワールドカップには8大会連続で出場した。2020年からビーチサッカー日本代表コーチを務め、24年にビーチサッカー日本代表監督に就任。長年にわたり日本ビーチサッカー界の発展に向けて取り組んでいる。

【特別企画】JFAオフィシャルグッズ
「ビーチサッカーウェア(ビーチサッカー日本代表)」を
1名様にプレゼント!
しかも田畑輝樹監督と
宮本恒靖会長のサイン入り!
ご応募はコチラから ▶▶
応募締切 :2026年12月10日(木)



※次号は2026年12月発行予定/本誌クレジット表記のない写真:©JFA、©JFA/PR、©Jリーグ、©WEリーグ

JFA DREAM 夢があるから強くなる

発行:公益財団法人日本サッカー協会
〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル 電話:050-2018-1990 HP:https://www.jfa.jp